［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　2008年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	０８９１９００００１１
法人名	社会福祉法人　若竹会
事業所名	牛久コスモス園
所在地	茨城県牛久市小坂町鹿ヶ作3388－1 （電　話）029－830－8861

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4－9－3　D101		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】（平成20年8月9日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　19　年　10　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	人	常勤　人，非常勤　人，常勤換算　人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての　階 ～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	17,430　円
敷　金	有　(無)			
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有)　200，000　円） 無		有りの場合 償却の有無	(有)／無
食材料費	朝食	420　円	昼食	630　円
	夕食	630　円	おやつ	105　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数	5 名	男性	5 名	女性	名
要介護1	名		要介護2	3	名
要介護3	1 名		要介護4	1	名
要介護5	名		要支援2		名
年齢　平均	85.8 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人　つくばセントラル病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年に開設され、地域に根付いた牛久市に貢献のうえで建てたホームである。ホームは、閑静な住宅地の中に位置しており隣には保育園と区民館がある。そのため、地域での行事ごとには利用者、職員ともに進んで参加されている。日々の生活の中では、近隣住人から野菜の差し入れなどもあり地域に溶け込んでいる。利用者は居心地のいい空間の中、穏やかな生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 今回が初めての外部評価なので、今後取り組んで行きたい内容として法人理念7項目と施設開設時に作り上げた6つの理念を掲げ、職員にも周知し日々のケアの中で理念の実践に向け取り組みを行っていきたい。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 一部職員に配布し、管理者と職員が話し合って作成している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 二ヶ月に一度、施設関係者、利用者家族、区長、民生委員参加の下で開催している。意見を聞き、ケアに取り入れる取り組みをしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 年4回の家族会にて報告、ホームだよりも発行し、状態に応じて電話などで報告している。苦情や意見に関しては面会時など家族にマメに確認している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 団地内の夏祭りの参加、小学生のボランティア、近隣の保育園との交流がもたれている。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人7つの理念のほか、施設開設時に職員全員で目指した6つの理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はステーション内に掲示して職員全員に周知している。又、年2回の人事考課制度において各職員が目標を立て日々のケアの中で理念につなぐよう支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、区の行事に参加している。毎月第3日曜日クリーン活動にも参加（職員のみであるが今後利用者も参加する方向で検討）月2回活発体操、歌の集い、夏祭りの参加をしている。ホーム主催の敬老会に保育園の子供達を招待するなど交流を図っている。夏休みには小学生30名ほどの歌のボランティアがあった。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で外部評価に関しての意義を伝えている。自己評価も一部職員に配布、話し合って作りあげた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに3回、2ヶ月に一度施設関係者、区長、民生委員参加の下開催している。2回までは利用者家族も参加したが、3回目は家族の要請があり家族を除いて開催された。牛久市行政としては参加していないので、家族との架け橋はホームとして積極的に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市および地域包括支援センター主催の介護保険事業所情報交換会、介護保険サービス事業所会議、ボランティア担当者研修会へ参加し、情報交換を行っている。又、介護相談員が月1回来訪。保育園との交流を深めてから小、中学校の体験学習を受け入れる予定。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議、家族会にて事故の報告や行事等の写真をスライドを用いて報告している。不参加者には書面にて報告、ホーム便りの発行もしている。体調不良等の際はその都度電話連絡をし、日誌（ケア日誌）に記録している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に施設の苦情担当窓口、市、国保連の外部の相談窓口を明記している。家族の要望など年4回家族会のとき確認し、まめに話を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在異動はない。小規模多機能、有料老人ホームもあるので職員のレベルアップの目的で今後異動を行う予定である。その際利用者が混乱しないよう、チームでフォローし合って行けるように情報交換などして混乱のないよう取り組んで行きたい。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で、各職員に研修費を割り当てており県主催の認知症介護実践者研修や管理者研修に参加している。研修報告は会議の中で報告する。月1回づつの全体会議、フロアー会議を開催し、職員のレベルアップにも努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人内の病院、施設サービス、在宅サービスの事業者が集まる会議に参加し情報交換を行っている。 又、定期的ではないがケアマネジャー、管理者、職員等研修内容に添った人が法人外の研修に参加し、情報交換も行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の希望があれば見学、体験利用の機会も設けている。家族の送迎が困難な場合、ホームでの送迎も行う。体験利用で混乱があった利用者に対しては職員間で受け止め、ケアに努めた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を確認してから、日中おしぼりや洗濯物を一緒にたたみながら会話を楽しんだりﾃﾚﾋﾞを一緒に見て笑ったりし、穏やかな生活が出来るように支援している。ホーム裏には畑があり、季節の野菜の収穫を楽しみにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの自宅での生活習慣を家族情報や入居時のアセスメントを利用しホームでの生活を支援している。意思表示が困難な利用者に対しても日頃の様子をみながら支援している。アルコール、喫煙も利用者の体調、家族と相談し提供している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族に意見・要望を事前に確認したうえで、ケアマネジャー、介護職員によるカンファレンスを行い、課題、問題を話し合ってケアプランを作成している。 又、ケアプランに添ったケアサービス記録を毎日記載している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標、長期目標と期間を設け見直しが出来るようにしている。ケアプランの期間以外でも状況変化時には、必要な関係者と話し合いその都度見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療的な相談があれば、ホーム内にいる看護師に確認し支援することが出来る。又、併設している施設に訪問するなど多機能性を生かし対応している。配食サービスの協力体制をとっている。（現在、要請なし。）		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時主治医の確認を行い、利用者、家族の希望を優先している。受診時必要に応じて、日頃の経過がわかるようかかりつけ医に情報提供を行っている。協力病院の下、往診を週1回受診、受診科目の変更など先生同士の話し合いも行われている。緊急時の対応は協力院が24時間体制で対応してくれている(電話可)。受診記録は看護師が記載。家族への報告は状況変化時に連絡をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認し介護職、看護師等の関係者、又かかりつけ医を交えた対応方針を話し合い共有化を図るようにしている。看取りについて、指針はあるがまだ職員に共有できていない。		職員、家族会と話し合い、ホームとしての方針を決め、それに添った支援作りに努めてほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、声かけは必ず“さん”づけで呼び目上の人であるという事を念頭に置き、支援をしている。個人情報の許可を入居時家族から同意書にサインをもらっている。記録は事務所に保管し、家族との面談は相談室や居室で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロア会議等で利用者の生活パターンなどを検討し、一人ひとりに合ったペースで混乱のないように一日の生活を過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が男性の為、食事の準備や片付けに関しては職員が行っている。食事は委託業者が一人ひとりに合った食事を提供しているが、おやつは利用者と作ることがある。	○	介助の都合で一緒に食べていないが、一人だけでも同席し、会話を楽しみながらの食事風景を作ってほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて夜勤帯以外の時間、入浴が可能である。入浴を嫌がる方に対しても、その方の状態に合わせ無理強いはせず、清拭、足浴など出来る範囲対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	喫茶店によく行っていた利用者に対して、個別でコーヒーを飲みによく出かけたりしている。又、お酒の好きな方に対しては月に一度、近所の居酒屋に飲みに出かけている。又、ホーム内での会を開く時に一言挨拶をしてもらったりすることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常、希望者には近所に公園があるので散歩やドライブ、買い物など事業所内に留まらずに戸外に出る機会を作っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は安全上の為、施錠をしている。居室は利用者によって施錠をする方もいるが、夜間は了解を取り開けて確認している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で消防署指導の下訓練しているが、開設して間もないので夜間想定の訓練はまだない。夜間想定を含め、今後地域との連携を方向付けしていく予定。備蓄品の用意はない。	○	今後起こりうる地震等の災害に備えた、備蓄品の用意が望ましい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託業者の栄養士が作成した献立により、栄養バランスの取れた食事を提供している。個々の嗜好、嚥下、咀嚼能力を確認し、本人にあった食事形態を提供している。医師から指示がある利用者に対しては、検査などの数値から判断し支援している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい空間作りとして、テーブルの配置や季節感の出る掲示物など配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者家族が持ち込みの家具等を配置し安心できる居室作りになっている。		